

《最上町生涯学習スローガン》

町民ひとり

1 学習

1 スポーツ

1 地域活動



俳句会へのお誘い

松尾芭蕉が記した紀行文「おくのほそ道」に纏わる史跡は当町にも複数存在し、世界に誇れる観光スポットになっています。そんな芭蕉来訪の地として、再び活気ある俳句文化を取り戻そうと町内の有志が集まり、尾花沢の俳句グループ「座の会」が主催する句会に参加し交流を深めています。句会とは当町が開催する俳句大会とは異なり、作者を隠した無記名形式で互いの句を評価し合う場で、他者の意外な解釈や意見交換が楽しめる対面ならではのライブ感がまさに醍醐味です。当町からの参加は少数ですが、直近では「方陰（かたかげ）に入りて歩みを遅くする」「アルプスの地形図を囲む生ビール」等の佳句が詠まれており、「自由に作句できるし他者に評価されることも結構楽しめる」等の意見が寄せられています。尾花沢での句会は月1回程度の開催となりますので、ご興味のある方はまずは最上町中央公民館（☎43-2350）までご連絡ください。



11月1日(日)

最上町大産業まつり

日 時：11月1日（日）10：00～15：00

場 所：最上町役場駐車場・中央公民館

スケジュール

- 10：00～ オープニングセレモニー
- 10：15～ 黒沢餅搗唄保存会ふるまい餅
お買い回り抽選会
- 10：45～ 山形大学花笠サークル四面楚歌
- 11：15～ 未来創造戦士ユメリオン
グリーティング
- 12：30～ 久保 陽貴ライブ
- 13：15～ fumika ライブ
- 14：00～ 海蔵 亮太ライブ

※天候により中止、または内容が変更になる場合があります。

美味しい食べ物
素敵なお店が勢揃い！

60店舗以上
大集合！！

お誘い合せのうえ ぜひお越しください！

【お問合せ】最上町役場 商工観光課
0233-53-2262（直）

令和8年度 最上町定例表彰

日 時：令和8年11月3日（火） 文化の日

場 所：中央公民館

最上町スポーツ協会表彰者

◎殊勲賞

阿部 公雅（神室産業2年）自転車競技

菅 瞬介（新東3年）ボクシング競技

菅 将吾（新東1年）ボクシング競技

中島 倖大（霞城学園2年）陸上競技

中嶋 寿帆（加茂水産3年）セーリング競技

野口 颯（新庄地区陸協）陸上競技

佐藤 穂（日本大学4年）スキー競技

阿部 花日未（山形工業3年）スキー競技

中嶋 尊帆（最上中3年）ヨット競技

◎功労賞

高橋 寿一（最上町卓球クラブ）

高橋 順一（最上町スキークラブ）

◎感謝状

笠原 重一（富沢グラウンドゴルフ愛好会）

大場 晋吾（最上町卓球クラブ）

～ご報告～

24TV 草の根チャリティー募金にご協力いただき誠にありがとうございました！

8月30日(日)マックスバリュ最上町店で行われました、24TV草の根チャリティー募金に皆様の温かいご支援と御協力頂き誠にありがとうございました。

ご支援いただいた募金は全て振込手続きをさせていただきましたのでご報告いたします。

募金金額 153,013円 となりました。

また、来年も実施する予定ですのでよろしくお願いいたします。

最上町高校生ボランティアサークル つくし会
会員一同



最上町高校生 ボランティアサークル 「つくし会」



輪投げ



お菓子釣り



アメのつかみ取り

10-4 ハロウィンパーティーを開催!!



お菓子袋作り



タイルアート

☆新しい本が続々入荷中です☆

中央公民館図書室新刊情報

《第175回芥川賞受賞作》

*「ゾンビ回収婦」小砂川チト 著(講談社)

*「夏帆 The Tale of KAHŌ」村上春樹 著
(新潮社)

*「王国」湊かなえ 著(マガジンハウス)

*「永遠の記憶」東野圭吾 著(文藝春秋)

*「非常に非ず」桜木紫乃 著(新潮社)

*「はじまりのスープ、夏ゼリー」瀬尾まいこ 著
(新潮社)

*「すべてが円くなるように」原田マハ 著
(幻冬舎)

*「ラスト・ワルツ」小手鞠るい 著(平凡社)

*「殺し屋の出世術」野宮 有 著(講談社)

*「やりたいことが見つかる世界の果てのカフェ」
ジョン・ストレルキー 著(ダイヤモンド社)

*「生きる言葉」俵 万智 著(新潮新書)

*「夜想い」住野よる 著(双葉社)

*「やまがた百名山 第2弾」
(山形会議パブリッシング)

*「韓国人オッパが作る家にある
調味料で毎日韓国ご飯」韓国人オッパヤミ 著
(KADOKAWA)

「月がきれいな夜に、 誰かに思い出してほしかった」 川代 紗生(サンマーク出版)

- - いつも、二番目。
私を一番に思ってくれる人は、誰もいない。 - -

三軒茶屋の喫茶店「雨宿り」を舞台に
毎週金曜夜十時に開かれる
「元カレごはん埋葬委員会」へ、失恋の痛みを
抱えた人たちがやって来ます。
思い出の料理をもう一度作り、
その恋を区切ることで少しずつ
前に進んでいく連作小説です。

